長野日報 (可) 日刊 上伊那

長野日報
Nagano Nippo

題字デザイン：原田泰治氏

2月5日（日）

発行所 長野日報社
〒392-8611 諏訪市高島3 ☎0266-52-2000(代)
©長野日報社2023

ものづくりの楽しさ体験

上伊那子ども科学工作教室

地元企業や駒工高生指導 ロボット組み立て

駒ケ根工業高校生に教わりながらロボットを組み立てる小学生ら

第22回上伊那子ども科学工作教室が4日、伊那市役所で開かれた。上伊那地方の小学4～6年生64人は、赤外線を感知するセンサーが付いたロボットを製作。地元企業の若手社員や駒ケ根工業高校（駒ケ根市）の生徒らに作り方を教わりながら、ものづくりの楽しさを体験した。

地元企業8社や同校、伊那市、駒ケ根市、箕輪町、上伊那広域連合で組織する実行委員会が主催。子どもたちのものづくりや科学への興味を深め、地元企業を知ってもらおうと毎年行っている。昨年までは参加者に各家庭で工作キットを組み立ててもらったため、会場を設けるのは3年ぶり。定員に対して356人の応募があり、抽選を行った。

教室では、若手社員7人や同校2、3年生35人が中心になって小学生に助言。小学生は説明書に従って細かな部品をつなげ、エリマキトカゲ型のロボットを組み立てた。

辰野町辰野西小学校5年の赤羽佑太（ゆうだい）君は「ちょっと難しかったが、お兄さんに教わったらできた。部品がカチッとはまると気持ちいい」と夢中で取り組んでいた。

ロボットは頭部の赤外線センサーで人や障害物になる壁などを認識し、人の後を追い掛けたり、障害物を避けて進んだりと2種類の動き方をする。小学生はロボットが完成するとすぐに起動させて動きを楽しんだ。

同高2年の桑沢琉牙さんは「ものを作るのは地道で大変だが、完成したときの達成感や楽しさを感じてほしい」と話した。

実行委員長でKOA技術イニシアティブ技術戦略センターラインリーダーの諏訪正樹さんは「手を使った細かな作業は学びも多い。ものづくりの楽しさを感じるとともに、地元にある企業についても知ってほしい」と語った。

教室の前には高校生と社員との交流会もあった。高校生は社員に質問しながら仕事のやりがいや入社時の思いなどを聞き、将来の参考にした。

（藪原麻理子）